

こどもの病気「はしか（麻疹）」

はしかは、小児の感染症とおもわれていましたが、近年、10代、20代の若年者間での感染が多く見られ、社会的にも関心を集めています。ワクチンを受けていない人や一度だけの接種では、十分な免疫が獲得できなかった人のあいだで、流行が起きたのだと考えられています。

- 原因：麻疹ウイルスの感染です。空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力はとても強いです。潜伏期間は10～12日です。一度かかると、免疫は一生持続します。
- 症状：はじめは、かぜのような症状で、2～3日すると一度熱は下がります。次に熱が出たときに、全身に赤い発疹が広がります。口の中にも広がり、目も赤くなり、声もかすれてとても苦しそうです。高い熱が続きます。はげしい咳もでます。
- 治療：症状をやわらげるくすりがあります。

（治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。）

- 病院に行くタイミング：はしかにかかっている子と接触した場合とき。熱のあとに、発疹がでたとき。はしかは、合併症をおこすことがあります。2回目の診察は、お医者さんの指示どおりにしてください。
- いつから学校（保育所）にいったいい？：解熱後3日間は出席停止となります。特有の咳がなくなるまで、家でゆっくりしていきましょう。

●おうちでできること：

休む・・・とてもつらい状態ですので、休んでいてください。

ごはん・・・口の中にも発疹ができるので、痛がって食べにくいとおもいます。口当たりのよいものにしてあげましょう。水分は、しっかり取ってください。

お風呂・・・咳が少なくなり、発疹がうすくなって、熱が下がってからにしましょう。

- 予防：1歳になると予防接種を受けることができます。予防接種を受ける前に、はしかにかかっている人と接触した場合、緊急の処置をうけることにより症状を軽くすることができます。すぐにお医者さんにいきましょう。

はしかにかかると、体力が落ちほかの病気にかかりやすくなっています。治ったあとも1ヶ月くらいは無理をしないようにこころがけてください。

今回のおはなし「輸出国」

潜伏期間に海外に行き、国外で発症する日本人が毎年報告され、日本は「はしか輸出国」といわれています。はしかをほぼ制圧した欧米や韓国などに比べ、「はしか対策後進国」とみられています。近頃は、海外への留学や就職だけでなく、国内でも予防接種証明書や、抗体検査結果証明書が必要となってきました。それだけ大変な感染症なのですね。

子供さんの予防接種については、お母さんたち保護者の責任です。しっかり対応したいものですね。